

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4670104225		
法人名	株式会社 グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホーム めぐみの丘冷水		
所在地	鹿児島市冷水町10-19		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com">http://www.kagoshima-kaigonet.com</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年12月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、市街地に近く病院・文化的町並として知られております。周りに緑の山々四季を感じさせる素晴らしい環境の中にあります。今夏は、ホテルの鑑賞会も催され入居者様も感激のひとつを過ごされました。そうした環境の中入居者様が日々の生活を穏やかに安心して暮らしてもらえるよう常にスタッフ一同「目配り、気配り、心配り」をモットーに支援しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近隣に歴史的施設が点在する閑静な住宅地に、有料老人ホームとともに建つ。玄関先に鮮やかな色彩の花が植えられ、スロープから中に入るとクリスマス飾りがホールを明るくムードにしている。中では利用者や職員の屈託のない会話が続けている。  
**【事業所の優れている点、工夫点】**  
 ・新任の職員が多い状況で、利用者が不利益を被らないようホームのあり方を真剣に模索している。  
 ・家族の支援が難しい利用者にも、最期まで安心して暮らせるような支援の可能性を探り努力している。  
 ・運営推進会議の助言を取り入れたり、外部評価の対話時に前向きな言葉が聞かれるなど、第三者の意見も参考に積極的な姿勢を感じる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

目次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 お一人おひとり地域の方々に支えていただき楽しく安心安全に暮らせるよう支援します。スタッフと全て共有しながら支援しています。	以前の外部評価後に地域密着の視点を盛り込んだ理念をみんなで作成している。玄関を入ったところに掲示し、日ごろの暮らしの中でも地域とのつながりを意識づけたいが、新任の職員も多く、全ての職員が認識しているとは言い難い。	事業所は理念の共有につながる良い機会にしたいと、新しい体制で再度理念を作り直すことも考えている。めざすサービスの在り方を職員全員で考えるためにも、現状に合った理念に作り変えていくことも一つの方法として期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域の方たちとの挨拶や回覧板を利用者様と一緒に届けたり地域の一員として交流を努めています。	地域の夏祭りに参加したり保育園児との交流を計画するなど地域との関係を大切にしている。また、町内会の一員として利用者とともに回覧板を届けたり、敬老会後にあいさつに回るなど地域に溶け込む努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老の日は、一軒一軒近所を回り、お互いにお祝いのあいさつをする。又は、認知症の方々の理解や支援の挨拶文を出したりして交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回地域包括支援センター代表・地区町内会長・副会長・老人会長・民生委員に來訪していただきホームの現状や話し合いを行い、地域の報告・行事参加等で交流しています。	最近では2か月に1回の開催である。町内会長(民生委員兼務)、地域包括支援センターも加わり、地域連携を目指している。行事の報告、施設内の紹介など運営の見守りや協力者として助言を得ている。	運営推進会議を充実させたいとの意向がある。家族の参加を考えたり、外部評価の結果を公表する場とするなど、より開かれたホームにすることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点 わからない点が、あったら電話で市役所担当者に聞いたり、指導してもらったり出向いた時も情報交換を行っている。介護相談員の受け入れには、毎年応じている。	介護保険課への諸手続きのみでなく、福祉事務所、高齢者福祉課など利用者を取り巻く関係機関と連携を取りながら情報交換を行い、運営推進会議以外でも問題解決に向けて取り組んでいる。また、毎年介護相談員の訪問を依頼しホームの透明性確保にも配慮している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議やスタッフ間でも身体拘束をしないケアについて話し合ったり、玄関の施錠を含め全職員で取り組んでいます。	各職員は身体拘束によって与える身体的、精神的苦痛を理解し身体拘束をしないケアを実践している。また、自宅や希望する場所へドライブしたり、外出時はさりげなく見守るなど鍵をかけずに安全に暮らせる工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について社内研修やマニュアル等でミーティングしたり、徹底防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、取り組んでいませんが、今後研修会などに参加し学んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、担当者が、十分に家族・利用者に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に出来るだけ家族や利用者とは話し合う時間を設け現状をお知らせしたり、意見を聞くように努めています。	家族の訪問時に管理者等が近況報告を行ない、体調に変化があったときや連絡の必要があるときには随時電話連絡を行っている。本人の希望は日頃の言動から読み取るよう常に気を配り、手紙や電話の支援も行っている。クリスマス会など家族との交流を計画するが家族の参加は少なく、今後の課題である。	定期的な家族への連絡など、家族の要望を引き出すための工夫を検討することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケア会議を行い、コミュニケーションを図り密度の濃い会議、議論をしてより高いレベルを目指しています。	毎月行われるケア会議で、運営に関する意見交換も行っている。管理者は勤務体制など職員の意見を聞くように努力しているが、新規採用が多く、十分な引き継ぎやその他の教育に時間をかける余裕がない状況である。	職場内外での研修の充実や他施設との交流機会の確保なども検討し、運営者や管理者に職員の意見が反映されるような取り組みが求められる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与を高め設定してくれています。パートでも給与をいただけるので働きがいが、あります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ホーム内で、ケア会議のあと研修を行い、外から研修の案内が届いたら検討し、参加する事もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月22日地区ケア会議に出席の申し込みをしています。12月に交流会案内や研修の案内が来ているので参加しようと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、親身になって話を伺い、不安な気持ちがあっても和らぐように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と計画作成担当者が、自宅や入院先に訪問し、入居について要望や不安を伺い、安心して入居できるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り柔軟な対応が、できるように考え、地域包括支援センターの方に相談したり、助言をいただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者から人生の先輩として教わる事もあり、感謝しながら、日々生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で連絡を取ったり、家族が面会に来てくださったときは、日々の生活の様子や必要となった物など詳しく伝え気軽に話ができるような関係を築いていこうとしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの友人・知人の方に気軽に面会に来ていただけるよう気を配っています。	入居前の介護保険事業所の記録などから以前の生活や家庭環境などを把握し関係の継続を支援している。ケアの中で本人との会話から馴染みの関係について知ることもある。また、電話や手紙なども利用しこれまでの関係を断ち切らないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの利用者さんの席の配置に気を配り、なごやかな時間が過ごせるよう交流の橋渡しをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方に、面会に行つて話を伺っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの時間をたっぷり取り、利用者や家族から、話を伺い、今望んでいることは、なにか 意向を聞きだし利用者本位の生活が送れるように心がけています。	日々のかかわりの中で会話などから本人の意向をくみ取り、介護記録や支援経過記録に記載し、ケア会議で職員間の共有を図っている。また、言葉からの把握が困難な方も日々の行動や表情から気持ちをくみ取るよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族や本人から生活歴やこれまでくらしてきた環境など詳しく伺いケアに活かせるように支援していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴・病状に配慮し、希望や能力に応じてその人らしく生活できるように支援していきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、本人や家族の要望を聞き、職員同士の情報交換を行ない、今必要なケアは、何か検討し、プランに活かせるように計画していきます。	ケアプランは6カ月ごとに見直し、担当者会議やケア会議、診療時の情報交換などから本人の意向や関係者の情報を得て新しいプランを作成している。職員へは毎日の記録にプランをはさみ、夜勤等で周知を図るように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子を細かく日誌に記入し、引き継ぎを行い、職員同士で情報交換し、ケアプラン見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対処できるように職員で迅速に対策を検討しケアに活かそうとしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内夏祭りに参加し、運営推進委員会には、町内会長、副会長、老人会長にも参加していただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば、いままでのかかりつけ医に受診可能ですが、遠いなどの理由で今みなさん近くの医院から月2回訪問診療を利用しています。	ほぼ全員が協力医をかかりつけ医として、月2回の訪問診療を受けながら、診察や電話連絡の際に主治医との情報交換を図っている。家族には面会の際に健康状態について説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で看護師と連絡を取り、医療連携で健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の協力のもと、連絡を取り合い、情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気が重症化し、退所される方もいますが、身寄りのない方は、医療連携でできる限りの支援をします。	重度化した場合や終末期は協力医と連携を取り、利用者の意向があれば最後まで看取る方針である。「看取り指針」があり看護師を職員として配置し方針を職員と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを準備し、確認するようにしています。12月研修予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は、1回終了し、2回目は、12月中旬を予定しています。	毎年2回訓練を行っている。今年は8月に昼間の時間帯の訓練を行い、12月に2回目が予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーについて研修を行い、自尊心を傷つけないように思いやりを持って接するように心がけています。	「個人情報の保護」マニュアルを作成し、記録物は事務室等に保管し、日々の記録は来訪者の目に触れないように配慮している。利用者へは日頃から個人を尊重するような声掛けや行動を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉でゆっくり話かけ、選択の幅をひろげ、自己決定しやすいように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望を伺いなるべく望んだ暮らしができるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる利用者は、本人の好みを尊重し、今日着る衣料を選んでもらったり、希望により、くしや電動髭剃りを使用してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげとりやまめの皮とりなど、できることがあれば、職員と一緒にゆっくり準備したり、お菓子を配ってもらったりしています。	畑で採れた作物を利用し季節を感じる食事である。利用者の力に応じて可能なことは共に行い、一人ひとりの意向を大切にして食事を楽しむことができるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事の提供や利用者に応じた食物の形態(ムース食/おかゆ、トロミ)を考え、水分補給にも気を配っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔清掃用具を準備し、本人のペースに合わせ、口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄の間隔を把握し、声かけや、トイレ誘導を行っています。	排泄チェックシートで一人ひとりの排泄のパターンを把握し、タイミングを見てさりげなく声をかけるなどの配慮をしている。おむつ使用から尿パット使用へと自立に向け、また、気持ちよい排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩にお誘いしたり、朝のトイレ習慣を試みる。繊維質の多い食物をバランスよく料理に取り入れたり、水分補給に気を配り、あまり飲みたがらない利用者には、飲み物の選択の幅はひろげています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今年の10月より、入浴を主に水曜と土曜に実施していますが、希望のある日や排泄の失敗や汚れた時、随時入浴してもらっています。	現在は基本的に週2回の入浴であるが、状況に応じて他の日の入浴も可能である。入浴日を決めたことかえてゆっくりと入浴してもらうことができるようになり、入浴を嫌っていた方も入ってもらうことができるようになったと感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れたときは、自由に横になつていただく。体調の良い日は、昼間 散歩やドライブ・レクリエーションで活動していただき、メリハリのある生活ができ、夜は、安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から、いただく薬の説明をよく読み、管理は、看護師が行い、介護職に説明し、わからないこと・疑問に思うことは、薬剤師や主治医に伺い理解するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲームを行う時、リーダー的役割をしてもらっている方、食事を始める時、あいさつの号令をお願いしている方がいます。音楽を聴くのが好きな方が多くカラオケをかけて楽しい時間を過ごしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、天気の良い日は、散歩・ドライブや買い物にお連れしています。花見も行きました。家族が面会に来て外出される方もいます。	計画を作り、毎日のように交代で外出している。ホーム周囲の散歩や食材の買い物に出たり、公園へ行くなどできるだけ一人ひとりの希望に沿った外出の支援を行っている。また、車いすの方も車に乗って一緒に出かけるなど外出の機会を確保している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は、おこずかいを持ち、自由に買い物されていた方がいましたが、今、自分で管理できる方がおらず、家族と一緒に買い物に行き、買われたり、職員が同行し、本人に選んでもらい購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したいと希望されるとき、職員が電話し、本人に代わっています。友人から送り物を頂いたときお礼の手紙を書いた方もいます。。年賀状のやり取りをしている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに季節の花を飾ったり、リビングの椅子に不愉快な音がでないように椅子カバーを履かせています。エアコンの温度調節に気を配っています。庭に草木を植え、季節感を味わえるようにしています。	ホールにはクリスマス飾りや季節の花が飾られ、テーブルやソファなど好きな場所でくつろぐことができる。キッチンで料理を作る様子がかげえ、音やにおいなどにより五感を刺激している。裏の庭には池にメダカが泳ぎ、ウサギが棲み、憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に椅子とテレビが置いてあり、ひとりで過ごすこともでき、リビングには、ソファがあり、気の合うもの同士でテレビを見ながら、会話をしている方もいます。庭のテーブルとイスで、お茶を飲む事もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人の意見を聞き、希望に添えるように自由に好みのものを持ち込んでもらっています。趣味のものなど(飾り物・カレンダー等)置いています。	家族の写真を貼ったり、テーブル・いす・テレビ・衣装棚などが持ち込まれ一人ひとりの好みに応じた居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ・一人ひとりの居室のドアには、大きく名前を書いた張り紙をし、どこなのかわかるようにし、手すりを取り付け自分で移動しやすいように配慮しています。		